

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 蛋白質研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 ゼロだった女性教授を2名採用した結果、教授における女性の比率が 15% となり、大きな改善を図っている。また、テニユアトラック制の下で、女性の任期なし独立准教授を 1 名認めるなど、研究現場に女性を積極的に登用したこと、新設部門として「多階層蛋白質統合研究部門」を発足させ、平成 27 年度末に導入した最新鋭のクライオ電子顕微鏡を利用した新しい構造生命科学のために研究体制の変革を行ったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「多階層蛋白質統合研究部門」に、クロス・アポイントメント制度を用いて外国人特任准教授(常勤)を1名、大阪大学の補助を活用して外国人特任助教(常勤)を1名雇用し、教育のグローバル化に対応したことが評価できる。